

第2期芦屋市スポーツ推進実施計画について

1 趣旨

平成31年3月に「芦屋市スポーツ推進実施計画(後期)」を策定し、“するスポーツ” “みるスポーツ” “ささえるスポーツ”を推進し、すべての市民がスポーツを楽しむことができる環境実現に向けた取組を行ってきました。

このたび、令和6年度から令和10年度までの「第2期芦屋市スポーツ推進実施計画」の原案がまとまりましたので、市民の皆様からの意見を募集します。

2 第2期芦屋市スポーツ推進実施計画(原案)

別添資料のとおり

3 今後の予定

(1) 市民意見募集

募集期間 令和5年12月18日(月)から令和6年1月26日(金)まで

周知方法 12月号広報あしや、市ホームページ、広報掲示板にて募集案内を行う。

閲覧場所 市ホームページ、スポーツ推進課、市役所北館1階行政情報コーナー、ラポルテ市民サービスコーナー、市民センター(公民館図書室)、図書館本館、保健福祉センター、市民活動センター(リードあしや)、潮芦屋交流センター

提出方法 市ホームページ上の意見募集専用フォーム、スポーツ推進課窓口にて持参、スポーツ推進課へ郵送、スポーツ推進課へファクス。

(2) 市民意見募集結果の報告

令和6年2月

(3) 計画策定

令和6年3月

4 添付資料

第2期芦屋市スポーツ推進実施計画(原案)

第2期芦屋市スポーツ推進実施計画

【原案】

令和6年(2024)3月

芦 屋 市

芦屋市民憲章

昭和 39 年(1964 年)5 月告示

わたくしたち芦屋市民は、国際文化住宅都市の市民である誇りをもって、

わたくしたちの芦屋をより美しく明るく豊かにするために、市民の守るべき

規範として、ここに憲章を定めます。

この憲章は、わたくしたち市民のひとりひとりが、その本分を守り、他人に迷惑を
かけないという自覚に立って互いに反省し、各自が行動を規律しようとするもので
あります。

- 1 わたくしたち芦屋市民は、文化の高い教養豊かなまちをきずきましょう。
- 1 わたくしたち芦屋市民は、自然の風物を愛し、まちを緑と花でつつみましょう。
- 1 わたくしたち芦屋市民は、青少年の夢と希望をすこやかに育てましょう。
- 1 わたくしたち芦屋市民は、健康で明るく幸福なまちをつくりましょう。
- 1 わたくしたち芦屋市民は、災害や公害のない清潔で安全なまちにしましょう。

はじめに

本市の総合計画では、「多様な文化・スポーツ・芸術・伝統が交流しながら芦屋の文化を発展させていくことが重要である」としております。スポーツ界では、昨年のワールド・ベースボール・クラシック、世界陸上、バスケットボールワールドカップ、ラグビーワールドカップにおいて日本代表が大活躍しました。また今年は、パリ 2024 オリンピック・パラリンピック、神戸 2024 世界パラ陸上が開催されます。

このように、スポーツに対する機運が高まる中、策定から 10 年になる第 2 期スポーツ推進計画と策定から 5 年になるスポーツ推進実施計画（後期）の見直しを行い、すべての市民が健康で豊かなスポーツ文化を楽しむことができる環境の更なる普及推進を目指して、第 3 期スポーツ推進計画と第 2 期スポーツ推進実施計画を策定いたしました。

本計画の策定にあたりまして、ご助言、ご協力をいただきました芦屋市スポーツ推進審議会の委員をはじめ、関係者、関係団体等の多くの皆さまに心から感謝申し上げますとともに、今後のスポーツ推進にあたり、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2024 年 3 月

芦屋市長 高 島 峻 輔

目次

第1章	計画の策定にあたって	1
1	計画策定の背景	1
2	計画の位置づけ	3
3	計画の期間	3
4	芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）の検証	4
第2章	芦屋市のスポーツを取り巻く現状と課題	7
1	人口等の現状	7
2	芦屋市の体育施設の利用状況	10
3	芦屋市民スポーツ意識調査	12
4	芦屋市のスポーツにおける課題	26
第3章	推進計画の目標と基本的考え方	32
1	基本理念（ビジョン）	32
2	使命（ミッション）	32
3	政策目標	33
4	数値目標（第3期芦屋市スポーツ推進計画終了年度まで）	33
第4章	具体的な施策の展開	34
1	“するスポーツ”の推進	34
2	“みるスポーツ”の推進	36
3	“ささえるスポーツ”の推進	38
第5章	今後の推進に向けて	40
1	芦屋市におけるスポーツ推進体制	40
2	芦屋市のスポーツ推進に向けて	41
参考資料		42
1	第3期スポーツ推進計画	43
2	スポーツ関連団体ヒアリング調査	60
3	第2期スポーツ推進実施計画策定までの経過	65
4	関係法令	66
5	芦屋市スポーツ推進審議会委員名簿	71

1 計画策定の背景

スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応えるとともに、爽快感・達成感・他者との連帯感など、精神的な充足も図っています。運動の分野においては、運動不足による生活習慣病の増加が問題となる中で、体力の向上やストレスの発散など、心身両面にわたる健康の保持増進等さまざまな効果も期待されています。また、生涯にわたって運動・スポーツを行うことは健康寿命の延伸にも効果があるとされており、活力ある社会を創造していく上で、重要な役割を担っています。

しかし、令和2年（2020）は、新型コロナウイルスの感染拡大により、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期など、大規模スポーツイベントの中止や、各種プロスポーツの開催時期・方法の変更など、スポーツ界に大きな衝撃、影響を与え、国が示した「新しい生活様式」に留意しながら、スポーツ・レクリエーション活動等を行うことが求められてきました。また、ICT（情報通信技術）、AI（人工知能）、VR（仮想現実）などのデジタル技術開発が急速に進展し、各種データを活用することによって、「みる」分野におけるエンターテインメント性の向上、「する」分野における新たなスポーツの創造を後押ししています。もう一方で、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会では、「多様性と調和」を基本的なコンセプトの一つとして、あらゆる面での違いを受け入れて、互いに認め合う共生社会を育むことの重要性が改めて認識されました。この考え方は、「誰一人取り残さない」とする「持続可能な開発目標（SDGs）」の理念にも通じるものがあります。

令和4年（2022）に策定された「第3期スポーツ基本計画」では、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のスポーツ・レガシーの発展に向けて、特に重点的に取り組むべき施策を示すとともに、「新たな3つの視点」である①スポーツを「つくる／はぐくむ」、②「あつまり」、スポーツを「ともに」行い、「つながり」を感じる、③スポーツに「誰もがアクセス」できる、を示しています。

本市においては、平成25年（2013）3月に策定した「第2期芦屋市スポーツ推進計画」に基づき、市民一人ひとりが、それぞれの年齢や体力、目的や好みに応じて、いつでも、どこでも、気軽に運動・スポーツを継続して実施できるよう「生涯スポーツ社会」の実現に向けたスポーツ環境づくりに取り組んできました。

また、平成31年（2019）3月には、「芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）」を策定し、これまでの取り組みを基本に据えつつ、スポーツを取り巻く環境の変化に対応しながら、「すべての市民、スポーツ団体、学校・大学、行政等が参画し、ささえ、連携・協

働を推進し、あしやスポーツ文化を創る」を目指し、スポーツ施策を展開してきました。

この度、「芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）」の見直しを行うため、令和4年（2022）8月に芦屋市教育委員会から芦屋市スポーツ推進審議会に対し、後期計画を検証・評価したうえで、スポーツの推進に関する本市の取り組み等を実現させることはもとより、多面にわたるスポーツの価値を高め、広く市民に伝えていくことを目的として、次の計画が目指す方向性を示していただくように諮問しました。そして、令和4年（2022）10月に、市民スポーツ活動の実態を総合的に把握し、スポーツ振興の基礎資料を得るため「令和4年度芦屋市民スポーツ意識調査」を実施し、令和5年（2023）6月に芦屋市スポーツ推進審議会から「第3期芦屋市スポーツ推進計画」の答申を受けました。

その答申を踏まえ、「第2期芦屋市スポーツ推進実施計画」を策定し、更なるスポーツの普及推進を目指します。

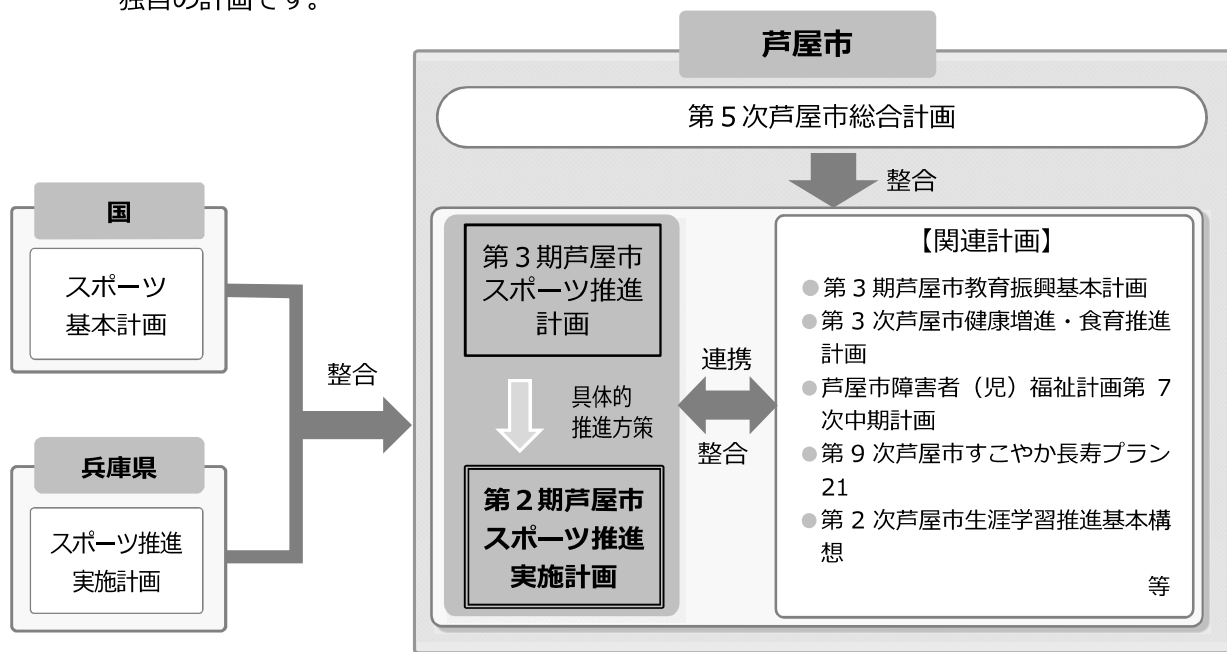
「第3期芦屋市スポーツ推進計画」の趣旨

「“するスポーツ”・“みるスポーツ”・“ささえるスポーツ”を推進し、すべての市民がスポーツを楽しむことができる環境を創る」ことを目指します。

2 計画の位置づけ

本計画は、「第3期芦屋市スポーツ推進計画」を具体的に推進するための計画であり、すべての市民が健康で豊かなスポーツ文化を楽しむことができる環境の更なる普及推進を目指すものです。

上位計画である「第5次芦屋市総合計画」をはじめ、関連計画との連携、調整を図るほか、国の「スポーツ基本計画」や兵庫県の「スポーツ推進実施計画」を踏まえた、市独自の計画です。



3 計画の期間

令和6年度(2024)から令和15年度(2033)の10年間を計画期間とする第3期芦屋市スポーツ推進計画に対応し、前半の令和6年度(2024)から令和10年度(2028)の5年間を本計画(第2期芦屋市スポーツ推進実施計画)の期間とし、後半の令和11年度(2029)から令和15年度(2033)の5年間を第3期芦屋市スポーツ推進実施計画の期間として位置付けます。

年度	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16~	
総合計画	第5次総合計画 R3(2021)~R12(2030)						第6次総合計画 R13(2031)~					
スポーツ 推進計画	第3期芦屋市スポーツ推進計画 R6(2024)~R15(2033)											
	第2期スポーツ推進実施計画 R6(2024)~R10(2028)											
					見直し	第3期スポーツ推進実施計画 R11(2029)~R15(2033)						

4 芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）の検証

平成 31 年（2019）に策定した「芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）」の進捗状況を検証すると下記の通りになります。

（1） ライフステージに応じたスポーツの推進

① 子どものスポーツ機会の拡大と体力づくり実施の増加を推進する施策

主な取組	<p>○親子で一緒に運動をする機会として、就学前児童を対象にした「秋のファミリースポーツのつどい」を毎年 9 月頃に実施。</p> <p>○芦屋大学・芦屋学園との官学連携事業として、「かけっこ教室」・「サッカー教室」・「バレーボール教室」を就学前児童と小学生を対象にした「春のファミリースポーツのつどい」を毎年 3 月頃に実施。</p> <p>○小学生も参加することができる新体カテスト測定会を毎年 11 月頃に実施。</p> <p>○マリンスポーツを体験する機会として、小学校高学年の児童を対象にした「少年少女カヌー教室」を毎年 7 月頃に実施。</p>
進捗状況	<p>「秋・春のファミリースポーツのつどい」や「少年少女カヌー教室」は毎年キャンセル待ちが発生するなど、本市の子どもにおけるスポーツへの関心の高さが伺えます。</p> <p>今後も、子どもがスポーツをできる機会を増やし、スポーツを好きになってもらい、スポーツを続けてもらえるように取り組んでいく必要があります。</p>

② 成人のスポーツ実施増加を目指す施策

主な取組	<p>○親子で一緒にスポーツを楽しむことができるように毎年 9 月頃に秋のファミリースポーツのつどいを開催。</p> <p>○ウォーキングマップを市内各所に配置、また事業の参加者に配布する等ウォーキング習慣の普及啓発を実施。</p> <p>○こども家庭・保健センターが実施している「あしや健康ポイント」のポイント付与事業として「新体カテスト測定会&健康・体力づくり相談」を実施。</p> <p>○年齢に関係なく取り組むことができるラジオ体操を普及するための「出前講座」を市内各所で、「市民向けラジオ体操講習会」を体育館・青少年センターで実施。</p> <p>○高齢者がスポーツを始めるきっかけとなるよう「出前講座」で貯筋運動※を市内各所で実施。</p>
進捗状況	<p>30～40 歳代のスポーツ実施率が低く、スポーツを実施するきっかけとなる親子で一緒にスポーツを行うイベントを増やしていく必要があります。</p> <p>高齢者については、貯筋運動のニーズが多いので、今後もニーズに応えられるように「出前講座」を市内各所で実施していきます。</p>

※貯筋運動

高齢者が病氣や怪我で入院している間に筋力が減少し、自立した日常生活を送ることができなくなることを防ぐために、日々「貯金」と同様に持続的に筋肉を鍛える運動。

筋力が弱くてもできること、怪我や事故の危険性が少ないこと、特別な施設や用具を必要とせず、自宅でも手軽にできること、の 3 条件を満たすプログラムを実施。

（出典：公益財団法人健康・体力づくり事業財団



③ 障がいのある人のスポーツ実施施策

主な取組	○「しょうがい者とのスポーツ交流ひろば」を芦屋市障がい者スポーツ指導者協議会・芦屋市社会福祉協議会・障がい福祉課と協力して偶数月に実施。
進捗状況	「しょうがい者とのスポーツ交流ひろば」を実施し、普及に努めていますが、参加数や障がい者スポーツボランティアの増加にはつなげていないことが課題となっています。

④ アスリートのためのスポーツ（競技レベルの向上）を推進させる施策

主な取組	○全国大会以上の大会において顕著な成績を残した市内在住のアマチュアアスリートに対してスポーツ活動助成金を交付。 ○県大会以上の大会において顕著な成績を残した市内在住・在勤・在学の者及び市内のスポーツ団体に対してスポーツ特別賞・スポーツ賞の表彰を実施。
進捗状況	全国大会・国際大会へ出場するアマチュアアスリートは、少しずつ増えており、引き続きアマチュアアスリートの応援を行います。

(2) スポーツ文化の推進

主な取組	○「スポーツ啓発事業小中学生によるポスター展」を毎年実施。 ○芦屋市スポーツ協会、芦屋市レクリエーションスポーツ協会、芦屋市スポーツ推進委員会、スポーツクラブ21ひょうご芦屋市連絡協議会の4団体で構成される「あしやスポーツフォーラム」で毎年2月にスポーツに関するフォーラムを開催。
進捗状況	体育館・青少年センター2階の展示ホールで市内の小・中学生が夏休みの課題として作成したポスターの展示や、「あしやスポーツフォーラム」の開催等、多くの市民に見たり、学んだりする機会を提供しました。

(3) ささえるスポーツの推進

主な取組	○市内におけるスポーツを推進するため「スポーツリーダー認定講習会」を実施し、スポーツリーダーの育成を推進。 ○スポーツ事業の実施にあたり、芦屋市スポーツ協会・芦屋市レクリエーションスポーツ協会・芦屋市スポーツ推進委員会・スポーツクラブ21ひょうご芦屋市連絡協議会と協力体制を構築。 ○「さくらファンラン」・「新体カテスト測定会&健康・体づくり相談」にスポーツリーダーがボランティアとして参加。
進捗状況	「スポーツリーダー認定講習会」により認定したスポーツリーダーの管理と活躍の場が課題となっています。 新たなスポーツボランティアを確保することが難しく、思うようにスポーツボランティアを増やすことができていない状況にあります。 日本スポーツ協会等の公的な機関が認定する指導者資格を有している指導者が少ないのに加え、研修を受けるなどして指導方法等をアップデートしている指導者も少なく、旧態然とした指導が行われていることが課題となっています。

(4) スポーツ団体、学校・大学、行政等における連携・協働の推進

<p>主な 取組</p>	<p>○三世代が交流する「クオリティー[※]交流会」は、芦屋市スポーツ協会と芦屋市レクリエーションスポーツ協会とが共催して実施。</p> <p>○芦屋市・尼崎市・西宮市・宝塚市・伊丹市・川西市・猪名川町・三田市で構成される阪神間スポーツ行政担当者連絡協議会では、年2回スポーツ行政における課題について意見交換を実施。</p> <p>○芦屋市・芦屋市教育委員会と学校法人芦屋学園・芦屋大学による包括的連携協定に基づき、スポーツに関する各種イベントを開催。</p>
<p>進捗 状況</p>	<p>さらなる取り組みが求められる施策もありますが、あしやスポーツフォーラムやクオリティー交流会等を通じ、市内スポーツ団体の連携・協働が図られました。</p>

※クオリティー

クオリティーとは、アメリカで人気が高く伝統のあるスポーツ「ホースシューズ」と日本の伝統的な「輪投げ」をミックスして考案されたニュースポーツのこと。ルールも簡単で、誰でも楽しむことができる。



1 人口等の現状

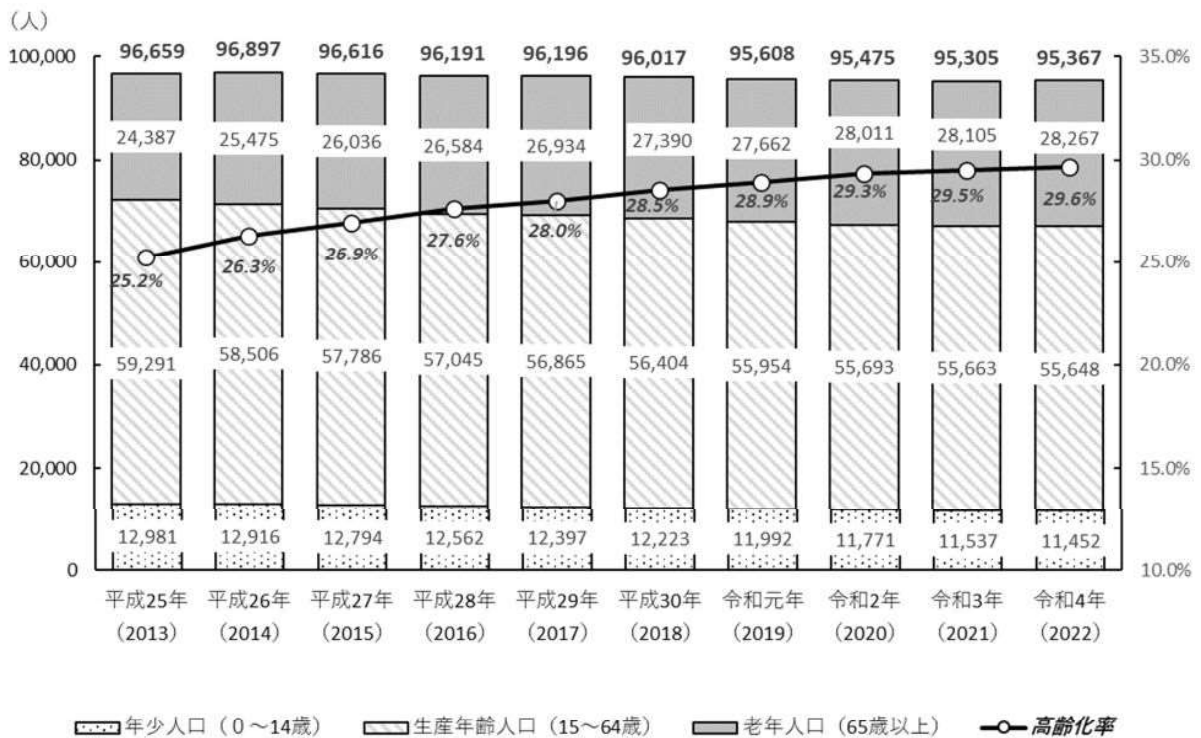
(1) 年齢 3 区分別人口と高齢化率の推移

総人口は近年微減傾向にあり、令和 3 年（2021）には 95,305 人となっています。

年齢 3 区分で見ると、年少人口（0～14 歳）および生産年齢人口（15～64 歳）は減少傾向にあり、平成 25 年（2013）からそれぞれ 11%、6%減少しています。

老年人口（65 歳以上）は増加傾向にあり、令和 4 年（2022）は平成 25 年（2013）から 16%増加し、人口の 3 割が高齢者となっています。

《年齢 3 区分別人口と高齢化率の推移》



資料：住民基本台帳（各年 10 月 1 日現在）

(2) 自然動態の推移

出生の割合は増減を繰り返しており、令和4年(2022)は5.8と令和2年(2020)と同水準となっています。死亡の割合は増加傾向にあり、令和4年(2022)では11.9と出生の割合の2倍以上となっています。



(3) 社会動態の推移

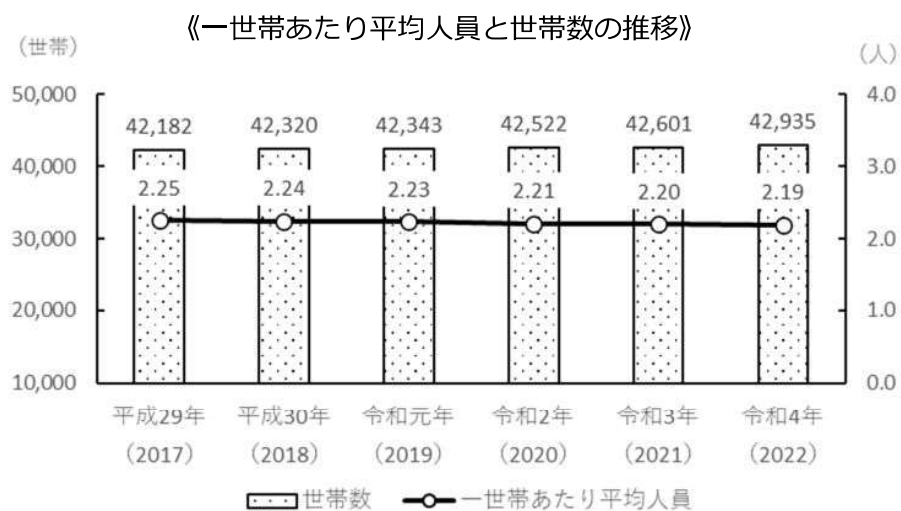
転入、転出ともやや減少傾向にありましたが、令和4年(2022)は増加傾向に転じています。近年は転入が転出を上回っており、社会増の傾向となっています。



(4) 一世帯あたり平均人員と世帯数の推移

世帯数は微増傾向にあり、令和4年(2022)には42,935世帯となっています。

一世帯あたりの平均人員はやや減少傾向にあり、令和4年(2022)には2.19人と
なっており、平成29年(2017)より大きな変化は見られません。



2 芦屋市の体育施設の利用状況

(1) 体育館・青少年センター貸室利用状況

体育館・青少年センター貸室利用状況をみると平成 30 年度（2018）の合計 12,462 件から新型コロナウイルス感染症の影響により令和 2 年度（2020）には 10,000 件程度まで減少したものの、令和 3 年度（2021）以降は増加し、令和 4 年度（2022）には合計 14,323 件まで増加しました。

また、トレーニング室についても、令和 4 年度（2022）は新型コロナウイルス感染症流行前の令和元年度（2019）以上の水準である 25,529 人まで利用者が増加しました。

単位：件

施設名	年度	平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
競技場 1		1,249	1,232	1,046	1,254	1,317
競技場 2		1,248	1,233	1,062	1,238	1,322
控え室		574	508	311	405	470
剣道場		1,041	1,067	906	1,133	1,216
柔道場		930	972	786	940	1,125
弓道場		1,101	1,050	840	1,048	1,107
多目的室 1		1,065	1,052	795	1,028	1,066
多目的室 2		1,068	1,042	804	1,026	1,143
多目的室 3		755	776	739	1,019	989
大会議室		990	969	874	1,128	1,211
第 1 会議室		445	552	283	429	432
第 2 会議室		556	728	307	465	592
第 1 研修室		654	547	381	580	611
第 2 研修室		257	540	691	982	1,034
音楽室		431	391	298	457	558
多目的研修室		98	128	55	78	130
合計		12,462	12,787	10,178	13,210	14,323
トレーニング室 (人)		20,719	22,859	14,970	20,408	25,529

(2) 屋外施設貸しコート等利用状況

屋外施設貸しコート等利用状況は、平成 30 年度（2018）から令和元年度（2019）にかけて利用件数が減少する施設もみられましたが、ほとんどの施設で令和 4 年度（2022）の利用件数が平成 30 年度（2018）を上回っています。

単位：件

有料施設名		年度				
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
東浜公園	庭球場	2,158	2,258	1,728	2,312	2,338
西浜公園	庭球場	2,421	2,122	2,105	2,506	2,515
川西運動場	運動場	1,249	1,260	1,040	1,172	1,343
芦屋中央公園	野球場	854	863	725	950	1,078
	芝生広場	453	452	362	430	507
芦屋公園	庭球場	13,262	13,342	11,095.5	12,819.5	13,971
	会議室	464	406	184	308	401

(3) プール施設利用状況

プール施設利用状況を見ると、令和 2 年度（2020）は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、いずれの施設も大きく減少しましたが、令和 4 年度（2022）には朝日ヶ丘公園および海浜公園の屋外プールでは平成 30 年度（2018）と同水準まで回復しています。

単位：人

有料施設名		年度				
		平成 30 年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
朝日ヶ丘公園	屋外プール	24,247	20,081	12,314	13,464	24,074
海浜公園	屋外プール	19,924	17,327	14,564	19,196	20,980
	屋内プール	55,168	50,299	36,041	46,245	50,487

3 芦屋市民スポーツ意識調査

(1) 芦屋市民スポーツ意識調査の概要

① 調査目的

本調査は、芦屋市民のスポーツ活動の実態を総合的に把握し、芦屋市のスポーツ振興に役立つ基礎資料を得ることを目的としています。

② 実施期間

令和4年(2022)10月1日(土)～10月31日(月)

③ 調査対象

芦屋市に居住する18歳以上79歳以下の男女3,000人

④ 回収率

35.1% (1,054通)

⑤ 調査方法

住民基本台帳及び外国人登録者から系統抽出法

(2) 芦屋市民スポーツ意識調査結果

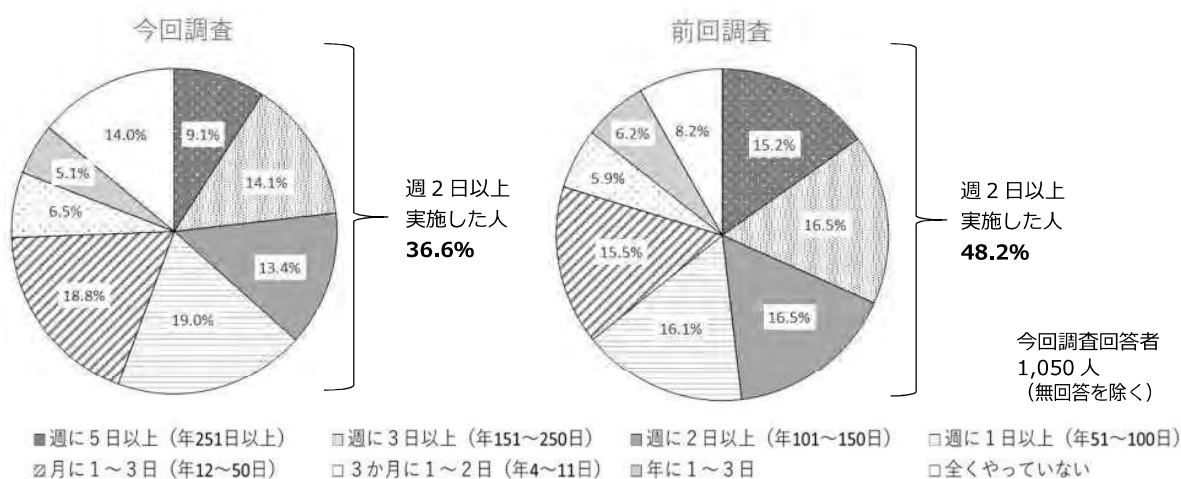
① 運動・スポーツの実施状況

この1年間における運動やスポーツを実施した回数について、「週に1日以上（年51～100日）」が2割弱と最も多く、次いで「月に1～3日（年12～50日）」が2割弱となっています。週に1日以上（年51日以上）は過半数を占めています。

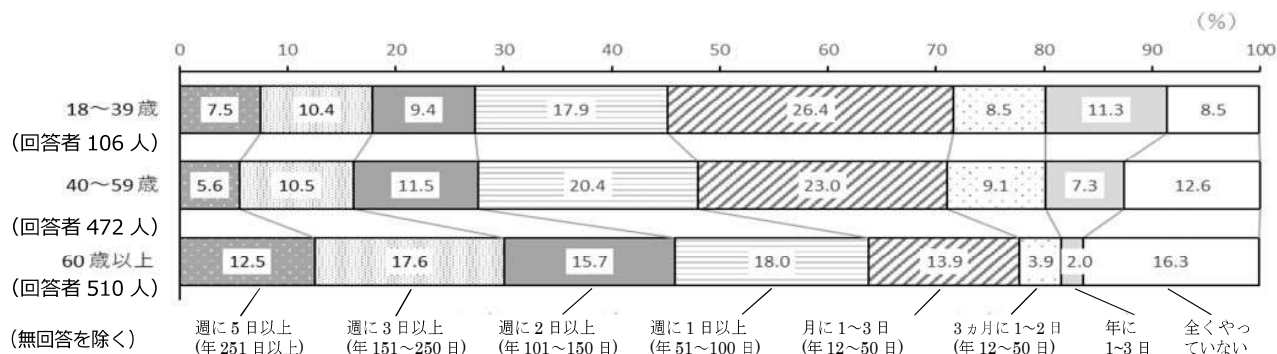
前回調査（平成29年度(2017)）と比較して、「全くやっていない」と回答した人の割合が多くなっているほか、週に2日以上運動やスポーツを実施する人の割合は1割減少しており、スポーツの実施頻度、実施する人ともに減少している状況です。

回答者の年齢別にみると、年齢が高くなるほど運動やスポーツの実施頻度が多く、60歳以上では6割以上が週に1～5日以上と回答していますが、一方で「全くやっていない」は他の年代より多く、二極化していると言えます。

《この1年間における運動やスポーツを実施した回数》



《年代別、この1年間における運動やスポーツを実施した回数》

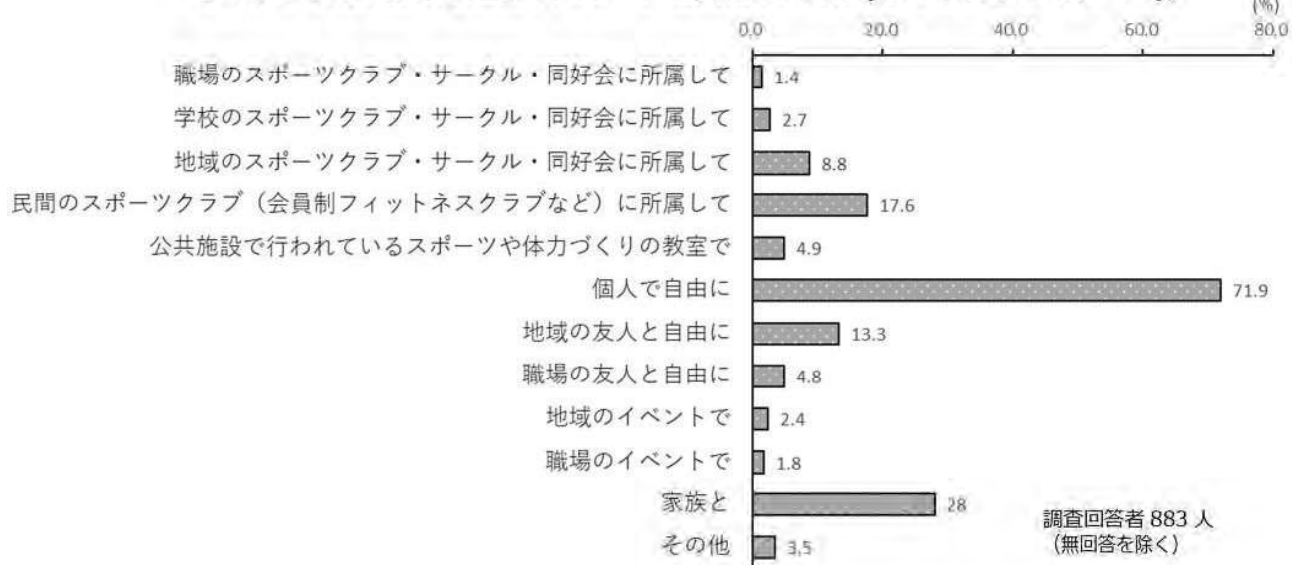


※選択肢の対比表

今回調査	前回調査
週に5日以上 (年251日以上)	週に4日以上

運動やスポーツを実施した方法としては、「個人で自由に」が 7 割以上と最も多く、次いで「家族と」が 3 割弱、「民間のスポーツクラブ（会員制フィットネスクラブなど）に所属して」が 2 割弱となっています。

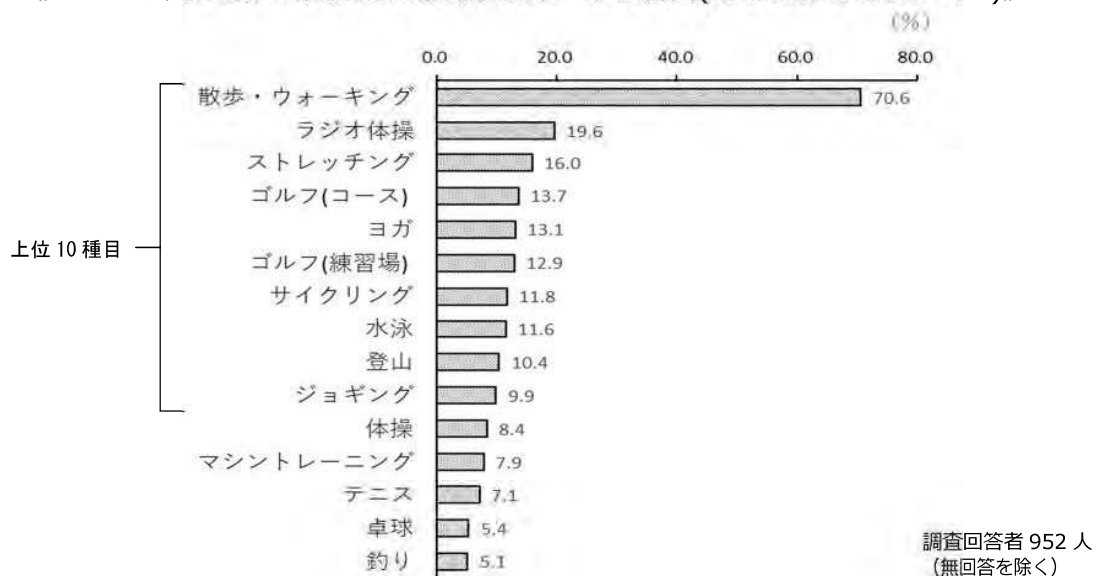
《この 1 年間における運動やスポーツを実施した方法(あてはまるものすべて)》



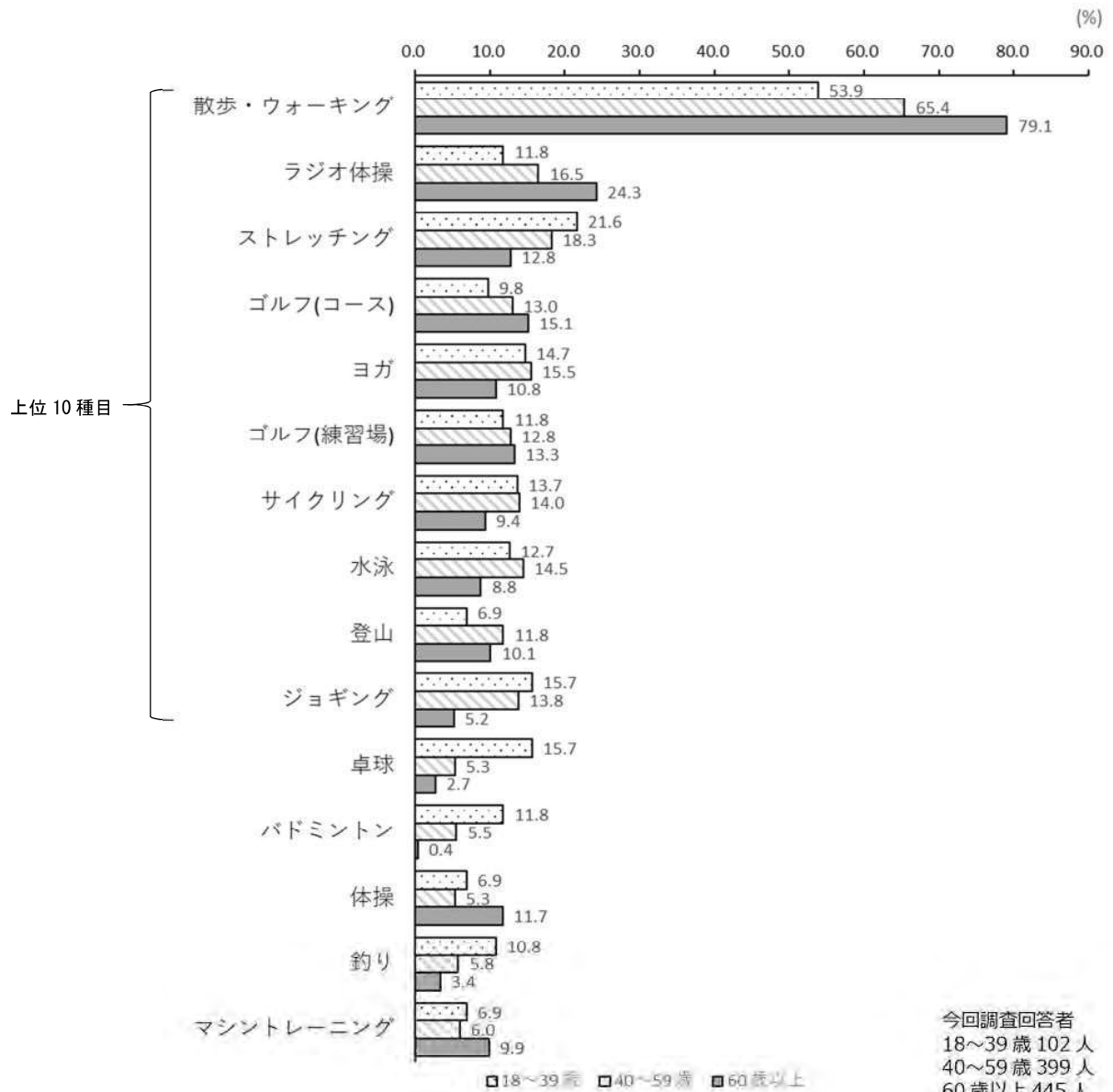
実施したスポーツの種目としては、「散歩・ウォーキング」が 7 割と最も多く、次いで「ラジオ体操」、「ストレッチング」が 2 割弱と多くなっています。それ以外の種目は 1 割程度で大きな差はあまりありません。

回答者の年齢別において、いずれの年代でも「散歩・ウォーキング」の割合が最も多くなっています。「散歩・ウォーキング」や「ラジオ体操」、「ゴルフ（コース）」は年代が高くなるほど、「ストレッチング」や「ジョギング」は年代が低くなるほど多くなっています。

《この 1 年間において実施した運動やスポーツの種目(あてはまるものすべて)》



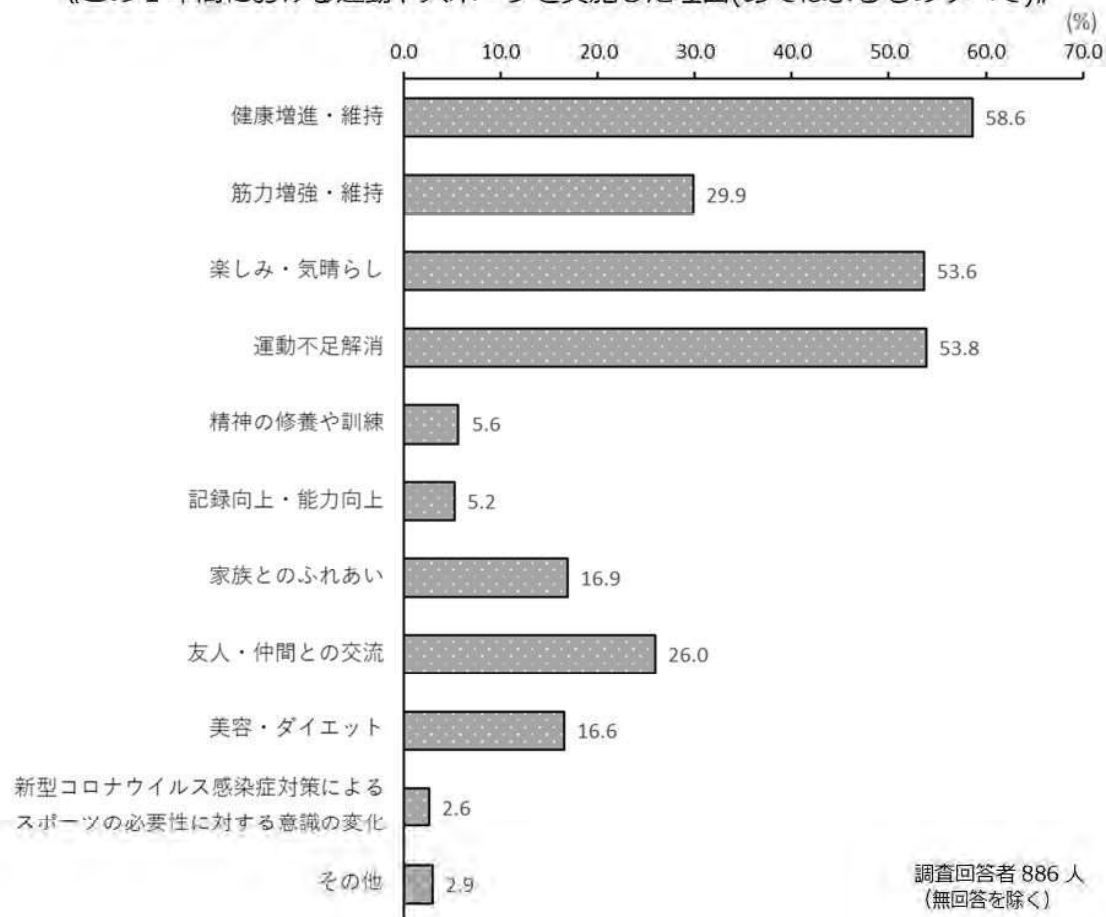
《年代別、この1年間において実施した運動やスポーツの種目(あてはまるものすべて)》



② 運動・スポーツを実施した理由・しなかった理由

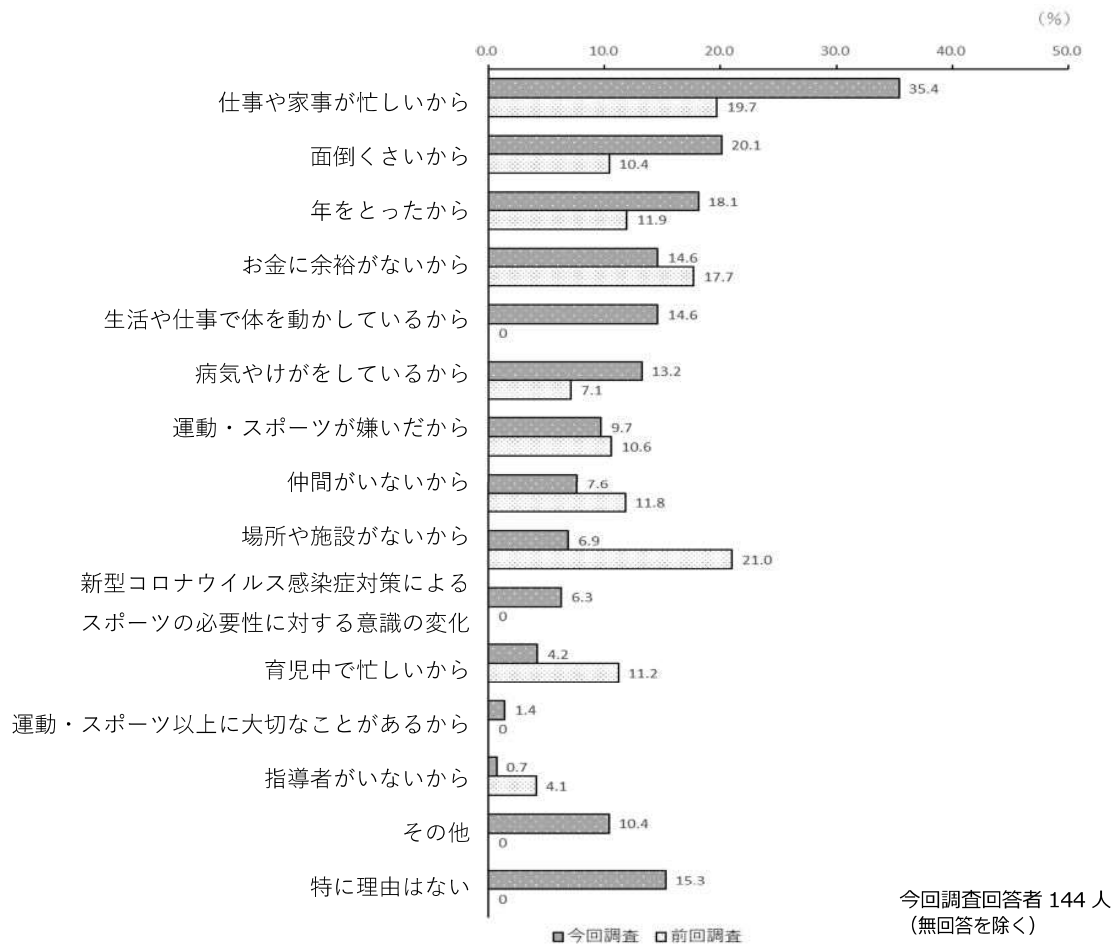
この1年間に運動やスポーツを実施した理由としては、「健康増進・維持」、「楽しみ・気晴らし」、「運動不足解消」が多く、半数以上の方が挙げています。次いで「筋力増強・維持」、「友人・仲間との交流」は3割弱となっています。

《この1年間における運動やスポーツを実施した理由(あてはまるものすべて)》



この1年間に運動やスポーツを実施しなかった理由としては、「仕事や家事が忙しいから」が4割弱と最も多く、次いで「面倒くさいから」が2割、「年をとったから」が2割弱となっています。前回調査（平成29年度（2017））と比較して、「仕事や家事が忙しいから」、「面倒くさいから」、「年をとったから」と回答した人は増加しています。一方、「場所や施設がない」や「仲間がいない」、「指導者がいない」は、平成29年度調査と比べて少なくなっています。

《この1年間における運動やスポーツを実施しなかった理由(あてはまるものすべて)》



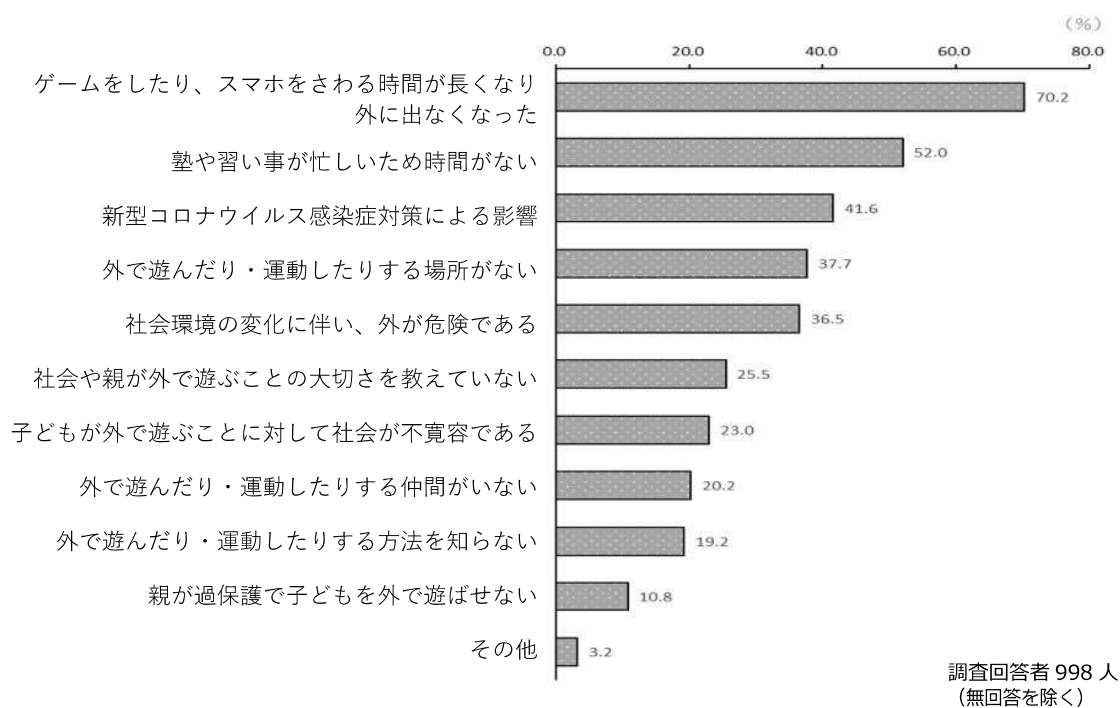
※選択肢の対比表（「0」は前回調査では選択肢なし）

今回調査	前回調査
仕事や家事が忙しいから	家事が忙しい
育児中で忙しいから	子どもがいる（育児に忙しい）
病気やけがをしているから	健康上の理由から
場所や施設がないから	身近に施設がない
運動・スポーツが嫌いだから	運動が苦手である
面倒くさいから	運動・スポーツをするのが面倒である

③ 子どもの体力低下の考え方

子どもの体力低下における考え方として、「ゲームをしたり、スマホをさわる時間が長くなり外に出なくなった」と回答した割合が7割と最も多く、次いで「塾や習い事が忙しいため時間がない」が5割強となっています。

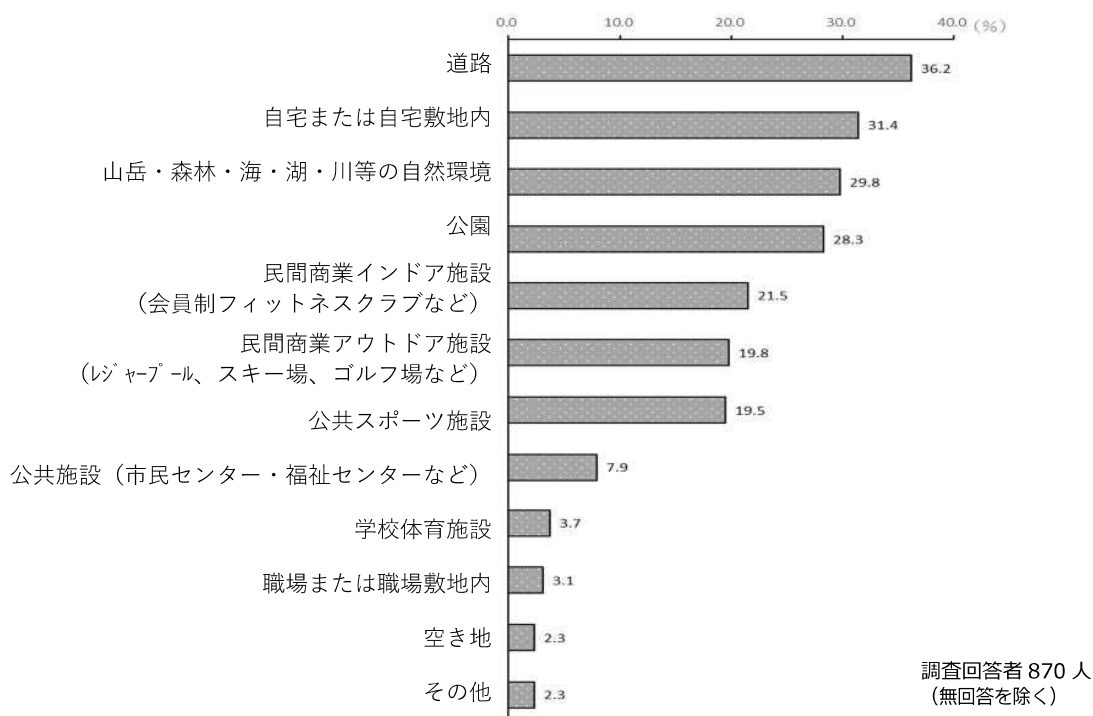
《子どもの体力低下における考え方(あてはまるものすべて)》



④ 運動・スポーツを行った施設

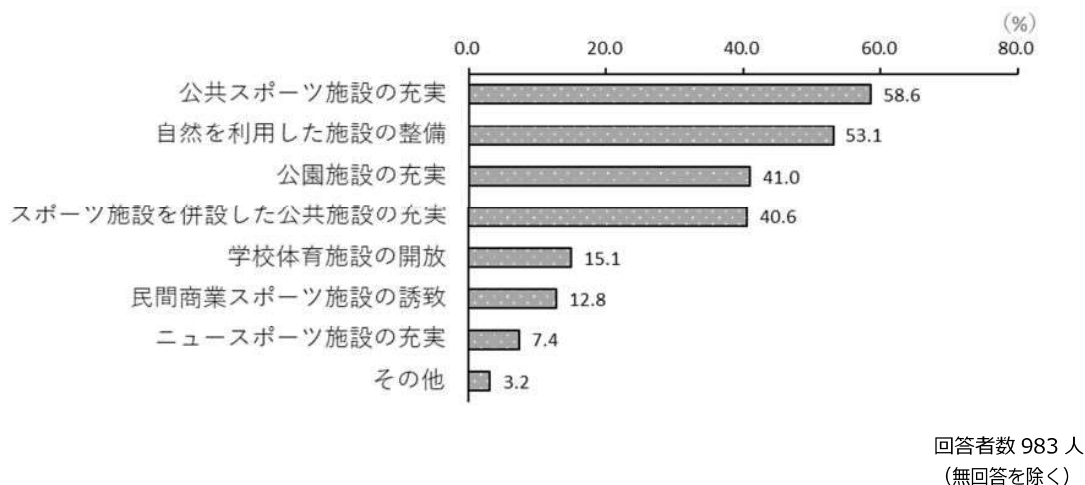
この1年間において運動やスポーツを実施した場所は、「道路」と回答した人の割合が4割弱と最も多く、次いで「自宅または自宅敷地内」、「山岳・森林・海・湖・川等の自然環境」、「公園」、「民間商業インドア施設（会員制フィットネスクラブなど）」が2割以上と多くなっています。

《この1年間における運動やスポーツを実施した施設(あてはまるものすべて)》



必要なスポーツ施設としては、「公共スポーツ施設の充実」および「自然を利用した施設の整備」の回答が過半数を占めています。次いで、「公園施設の充実」、「スポーツ施設を併設した公共施設の充実」は4割を占めています。

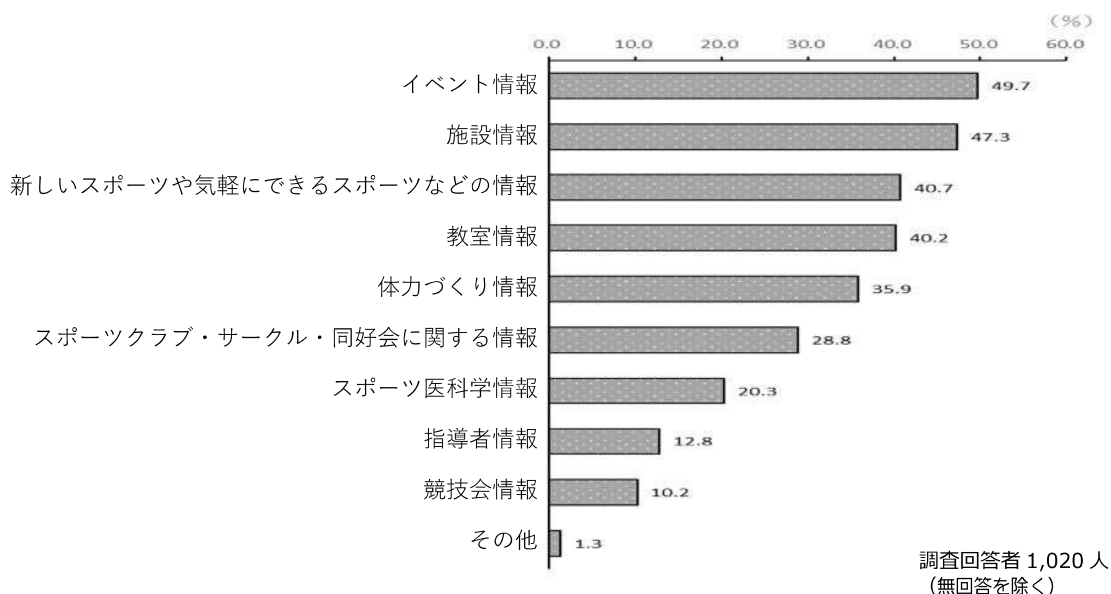
《スポーツ施設について必要だと思うもの(あてはまるものすべて)》



⑤ スポーツに関する情報収集

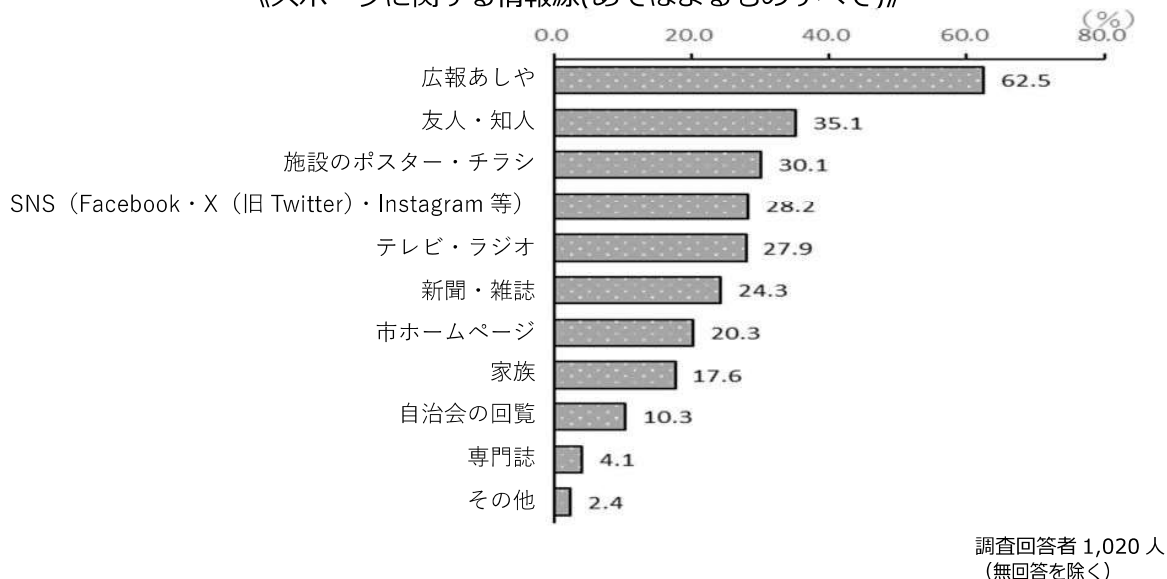
必要だと思うスポーツに関する情報としては、「イベント情報」が5割弱と最も多く、次いで「施設情報」、「新しいスポーツや気軽にできるスポーツなどの情報」、「教室情報」が4割以上と多くなっています。

《スポーツに関する情報において必要だと思うもの(あてはまるものすべて)》



スポーツに関する情報源は「広報あしや」と回答した人の割合が最も多く、6割強を占めています。次いで「友人・知人」、「施設のポスター・チラシ」、「SNS (Facebook・X (旧 Twitter)・Instagram)」、「テレビ・ラジオ」の割合が高くなっています。

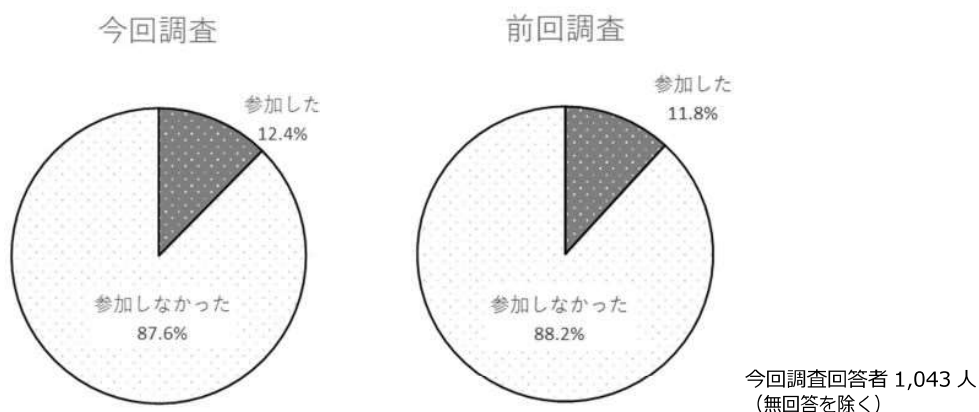
《スポーツに関する情報源(あてはまるものすべて)》



⑥スポーツ行事への参加状況・参加希望

この1年間にスポーツ行事に「参加しなかった」人は9割弱を占め、前回調査と変わらずほとんどの人がスポーツ行事に参加していない状況です。

《この1年間におけるスポーツ行事の参加状況》



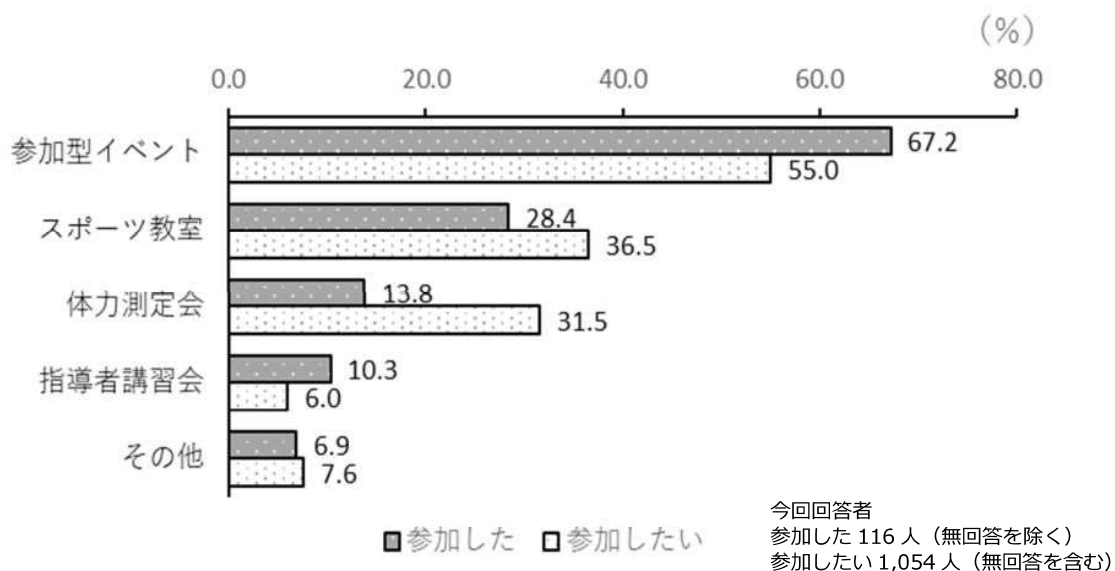
※選択肢の対比表

今回調査	前回調査
参加した	「参加した」「見に行った」を合わせた割合
参加しなかった	「参加しなかった」「知らなかった」を合わせた割合

この1年間に参加したスポーツ行事は、「参加型イベント」が7割弱と最も多くなっています。

今後参加したいスポーツ行事としては、8割以上の人何らかのイベントに参加したいと回答しています。参加したスポーツ行事と同様に「参加型イベント」のほか、「スポーツ教室」「体力測定教室」と回答する人の割合も多くなっています。

《この1年間で参加した、および、今後、参加したいスポーツ行事(あてはまるものすべて)》

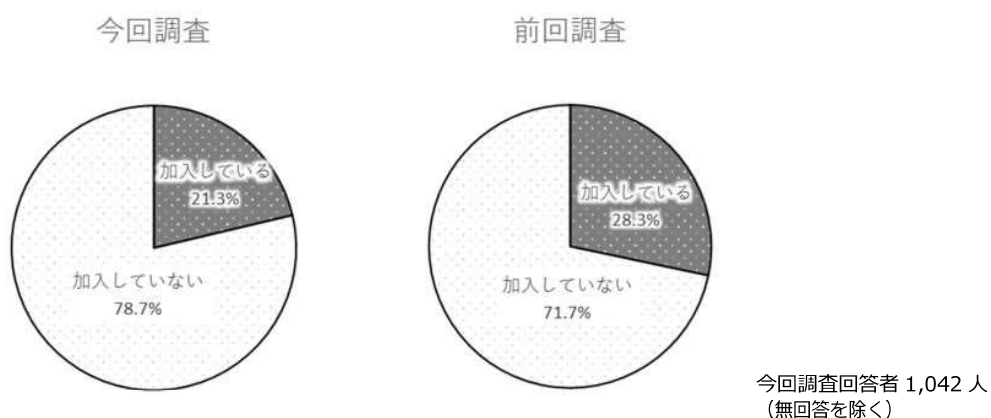


⑦ スポーツクラブ・サークル・同好会への加入状況

スポーツクラブ・サークル・同好会への加入状況は、2割にとどまり、前回調査から7ポイント減少しています。

加入していると回答した人のうち「民間のスポーツクラブ（会員制フィットネスクラブなど）」に加入している割合が過半数を占めています。

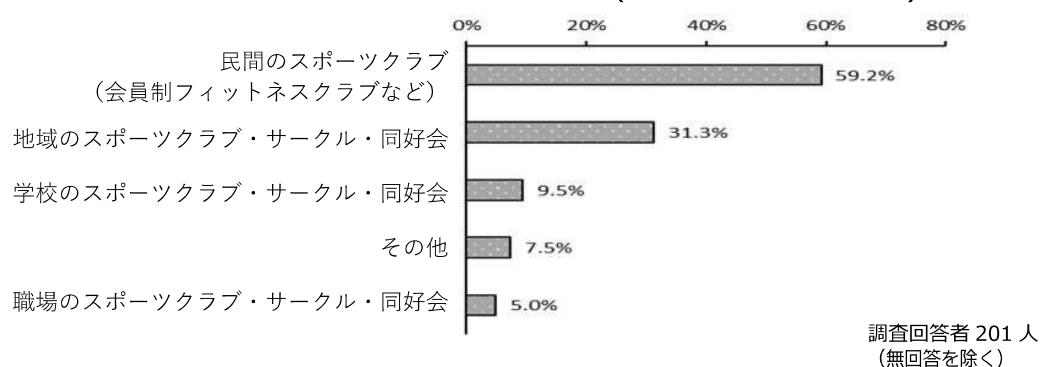
《スポーツクラブ・サークル・同好会の加入状況》



※選択肢の対比表

今回調査	前回調査
加入していない	「過去に加入していたが、今は参加していない」 「これまで加入したことはない」を合わせた割合

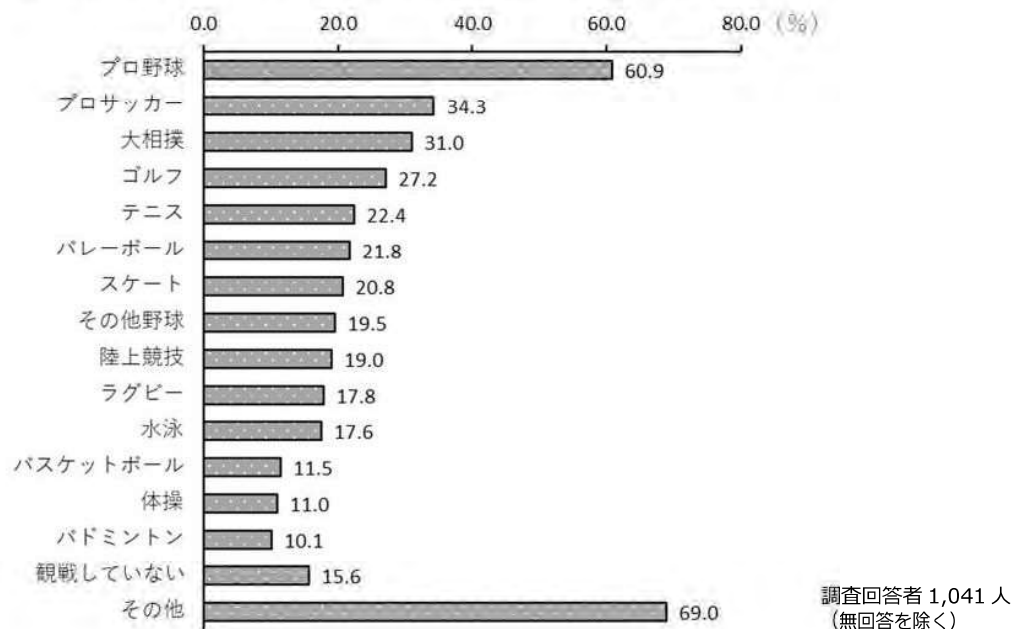
《加入しているスポーツクラブ・サークル・同好会(あてはまるものすべて)》



⑧ スポーツ観戦状況

この1年間で現地やメディア等で観戦したスポーツとしては、「プロ野球」が最も多く、次いで「プロサッカー」、「大相撲」となっています。

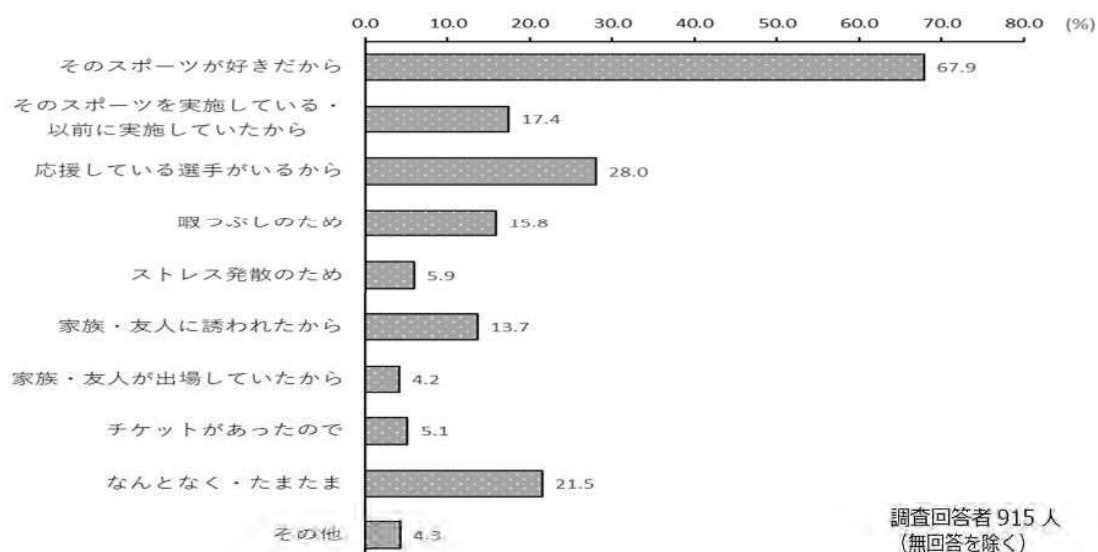
《この1年間に現地やメディア等で観戦したスポーツ(あてはまるものすべて)》



※「その他」は 10%以下の選択肢 (8% (格闘技、スキー、スノーボード)、7% (アメリカンフットボール)、6% (ニュースポーツ)、5% (障がい者スポーツ、スポーツクライミング)、4% (新体操、その他サッカー、モータースポーツ)、3% (その他) など)

スポーツを観戦した理由としては、「そのスポーツが好きだから」が 7 割弱と最も多く、次いで「応援している選手がいるから」が 3 割弱となっています。

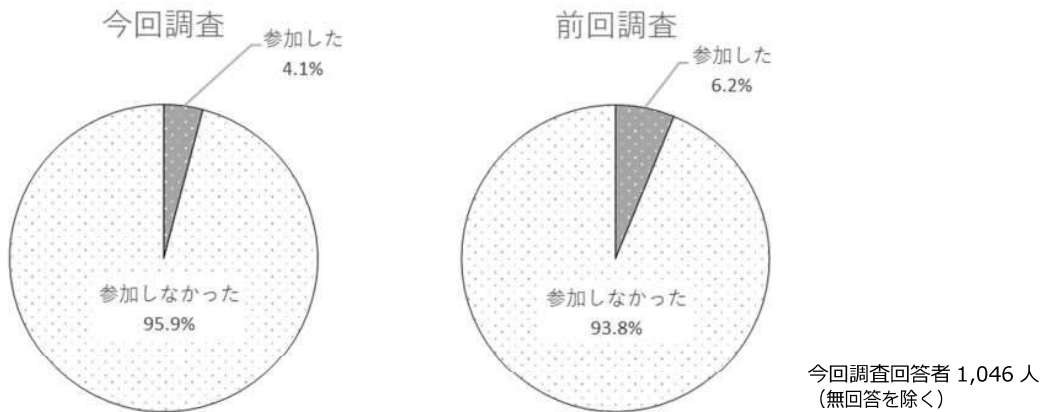
《この1年間に現地やメディア等でスポーツを観戦した理由(あてはまるものすべて)》



⑨ スポーツボランティア活動への参加状況

この1年間におこなった運動やスポーツに関するボランティア活動に「参加しなかった」と回答した人が9割以上を占め、平成29年度調査より多くなっています。

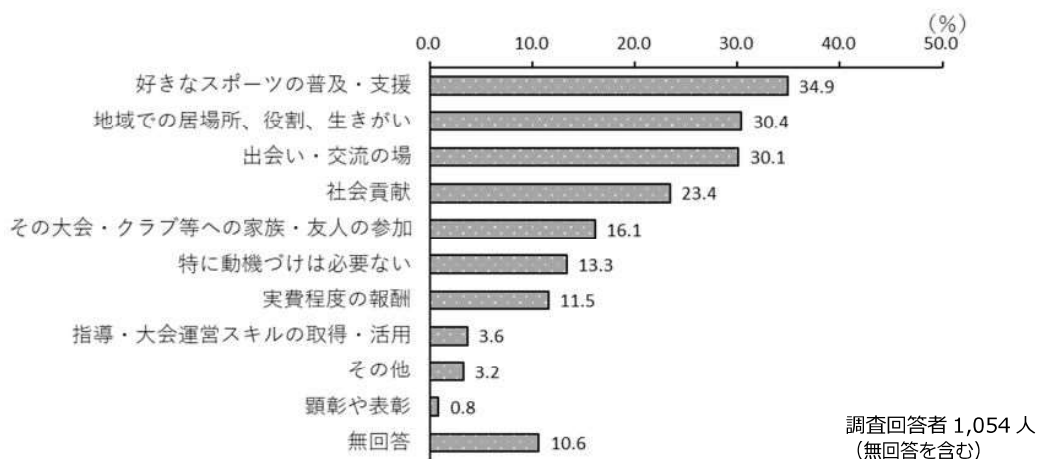
《この1年間におこなった運動やスポーツに関するボランティア活動(有償・無償)》



運動やスポーツに関するボランティア活動をおこなうきっかけとして、3割の人が「好きなスポーツの普及・支援」や「地域での居場所、役割、生きがい」、「出会い・交流の場」と回答しています。

《運動やスポーツに関するボランティア活動(有償・無償)の実施、継続のために必要なきっかけ

(あてはまるものすべて)》

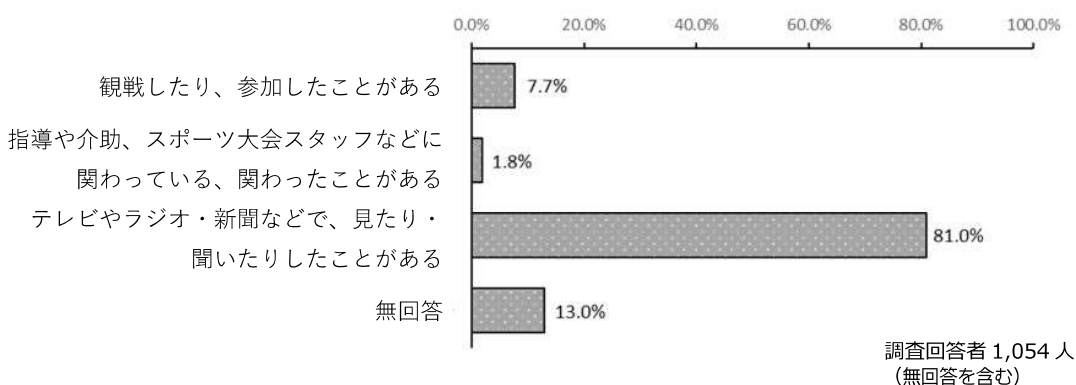


⑩ 障がい者スポーツの普及・推進に向けて

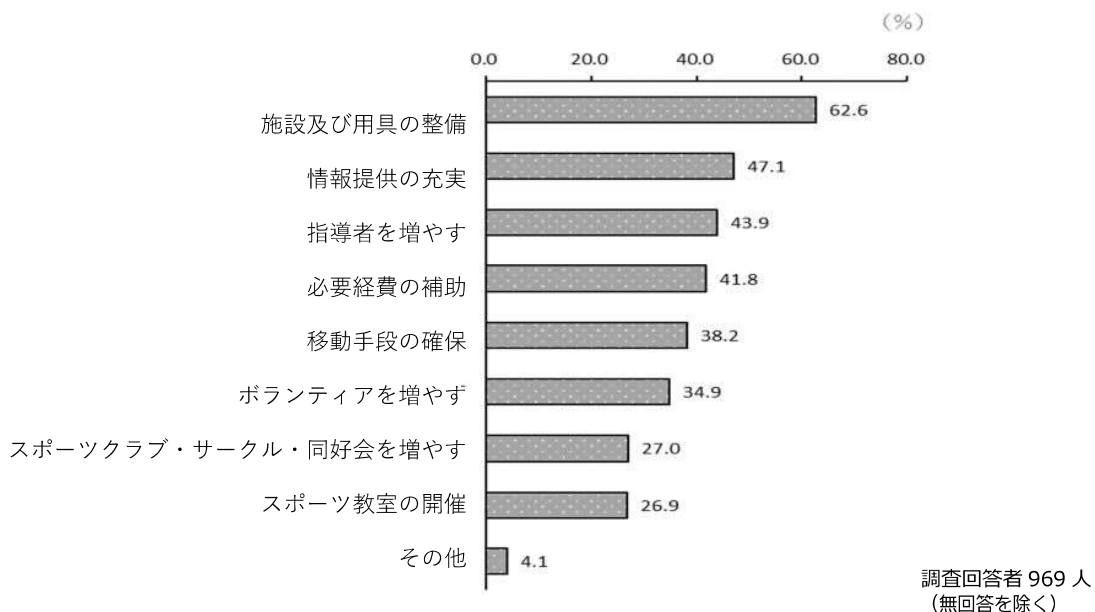
障がい者スポーツに対しては、無回答を除く大半が何らかの関わりを持っており、8割以上が「テレビやラジオ・新聞などで、見たり・聞いたりしたことがある」としています。

また、普及・推進のために必要だと思われることとしては、「施設及び用具の整備」が6割強と最も多く、次いで「情報提供の充実」、「指導者を増やす」、「必要経費の補助」、「移動手段の確保」、「ボランティアを増やす」が3割以上と多くなっています。

《障がい者スポーツとの関わり(あてはまるものすべて)》



《今後、障がい者スポーツの普及・推進のために必要だと思うこと(あてはまるものすべて)》



4 芦屋市のスポーツにおける課題

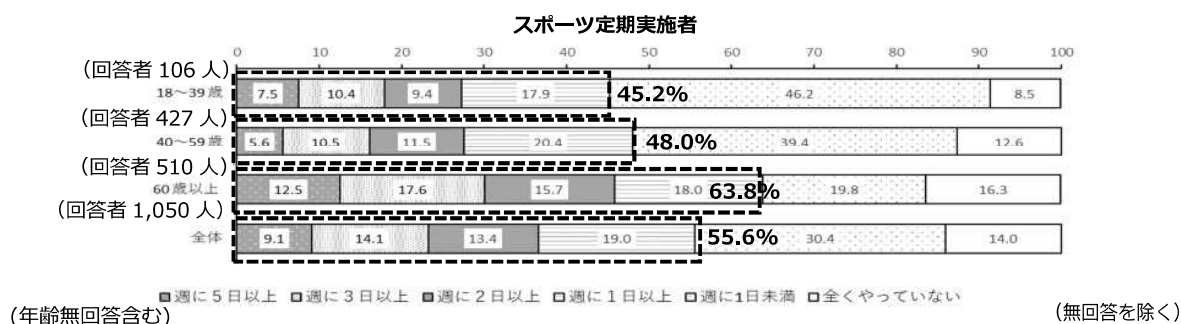
第3期芦屋市スポーツ推進計画の基本理念を念頭に置きつつ、推進項目である“するスポーツの推進”、“みるスポーツの推進”、“ささえるスポーツの推進”の観点から、芦屋市スポーツの現状と課題を以下に整理します。

(1) “するスポーツ”の推進

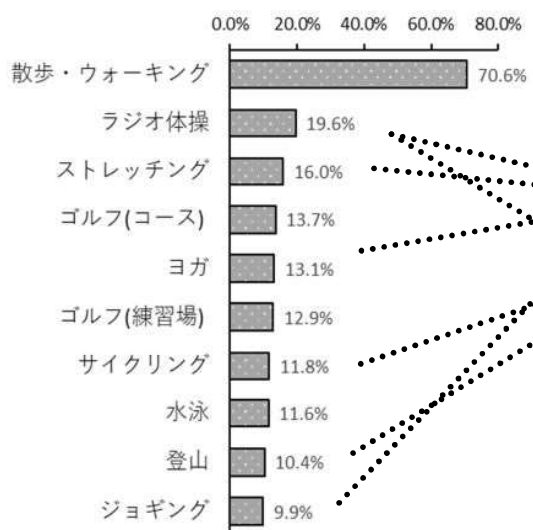
【現状の整理】

- ・意識調査によるとスポーツを週1回以上行う「定期実施」は全体では5割半ばですが、年齢層が高いほどスポーツを頻繁に行う人の割合が高くなる傾向がみられます。実施種目として、散歩やウォーキングは年齢を問わない一方で、ラジオ体操やゴルフ（コース）は年代が高くなるほど、ストレッチングやジョギングは年代が低くなるほど実施者が多くなっています。
- ・行ったスポーツ種目としては、散歩やウォーキング、ラジオ体操、ストレッチングなど一人でやる運動が多く、実施場所としては、自宅（敷地内）、道路、公園、山岳・森林等の自然環境が多くみられました。自然地や道路を活用した散歩、ウォーキングや公園や自宅におけるストレッチなど気軽にできるスポーツへのニーズが高くなっています。
- ・イベントや施設に関する情報、気軽に取り組めるスポーツに関する情報、スポーツ教室に関する情報の入手が求められているほか、8割以上の人は何らかのイベントに参加したいと考えています。
- ・スポーツ実施の阻害要因として、成人では、仕事や家事で忙しく（時間がない）や面倒くさいが多く、子どもでは、ゲームなどの時間が長く外に出ない、塾や習い事が忙しく時間がない、場所がない、外が危険といった意見が多く挙げられています。
- ・障がい者スポーツについて、実際に観戦・参加したり、大会スタッフとして関わっている人はそれほど多くありませんが、8割の人がテレビなどで情報を得るなど、関心は持っていることがわかります。

《スポーツ意識調査-年代別、この1年間における運動やスポーツを実施した回数》



《スポーツ意識調査-この1年間に実施した運動・スポーツ(左)と実施した場所(右)(主なもの)》



回答者 952 人
(無回答を除く)

スポーツ実施場所	回答率
道路	36.2%
自宅または自宅敷地内	31.4%
山岳・森林・海・湖・川等	29.8%
公園	28.3%
民間商業インドア施設 (会員制フィットネスクラブなど)	21.5%
民間商業アウトドア施設 (レジャープール、スキー場、ゴルフ場など)	19.8%
公共スポーツ施設	19.5%

回答者 870 人
(無回答を除く)

【“するスポーツ”の推進に向けた課題】

本市においては、今後も高齢者の増加が想定され、健康づくりや体力の維持・向上につながる運動・スポーツの推進が求められます。また、子どもの体力が全国平均より低いことから、子どもが楽しく親しみながら運動・スポーツの習慣を身に付けられる環境の充実が必要です。

ライフステージにより、スポーツへの関心や運動能力、阻害要因も異なることから、それぞれのライフステージに対応した情報発信や機会の提供、環境整備が求められます。また、子どもが運動・スポーツを行うことの必要性について、大人が理解を深めるための啓発を行うことも必要です。

市民一人ひとりが本市の自然環境や歴史文化にふれながら運動・スポーツに取り組んでいくことが重要であり、気軽に参加できるイベント開催のほか、SNS を活用したスポーツ情報の発信や情報サービスの一元化など、市民ニーズに応じた効果的な情報提供が求められます。

本市では令和3年1月に「芦屋市障がい者を理由とする差別のない誰もが共に暮らせるまち条例」を施行するなど、障がいのある人もない人も安心して暮らせる社会の実現を目指しています。スポーツにおいても、障がいの有無等に関わらず参加できるインクルーシブスポーツの推進に取り組み、誰もがスポーツに親しむことができる環境を整えることが重要です。

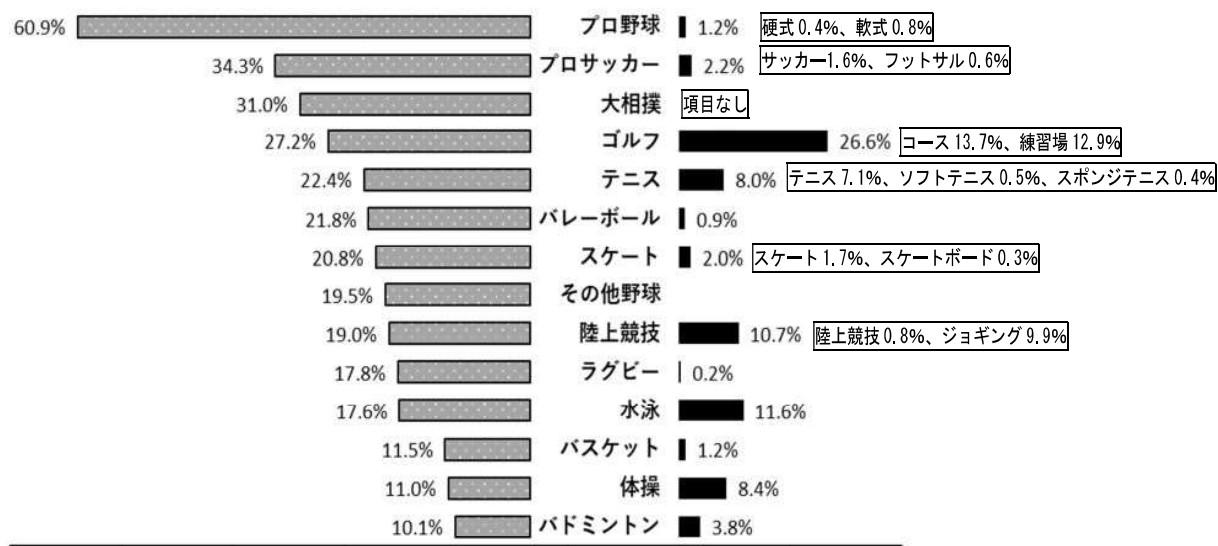
障がいのある人が身近にスポーツに親しめるよう、関係機関と連携しながら、施設のバリアフリー化や障がい者スポーツを支える人材の確保、イベントの開催のほか、障がい者スポーツに関する情報発信や普及啓発を通じ、交流促進や市民への理解を深めることが求められます。

(2) “みるスポーツ”の推進

【現状の整理】

- ・本市には、主なスポーツ施設として、総合公園、芦屋中央公園野球場等、市立体育館、川西運動場、芦屋公園テニスコート等、海浜公園水泳プール等などが整備されていますが、基本的には“するスポーツ”対応の施設であり、大規模なスポーツイベントを開催するなど集客性の高いものはありません。
- ・意識調査によると、1年間で観戦したスポーツとしては、プロ野球、プロサッカー、大相撲、ゴルフ、テニス、バレーボール、スケートなどテレビ中継が行われているものが多く、実施に行っているスポーツとは乖離しています。観戦理由としては、そのスポーツそのものや選手が好きといったシンプルなものが多く、スポーツへの憧れや感動、一体感が重視されています。

《スポーツ意識調査-この1年間に現地やメディア等で観戦したスポーツ(左)(主なもの)とその種目の実施状況(右)》



回答者 1,041 人
(無回答を除く)

回答 952 人
(無回答を除く)

【“みるスポーツ”の推進に向けた課題】

“みるスポーツ”は、“するスポーツ”、“ささえるスポーツ”への誘因、意識醸成につながることを期待されています。スポーツへの関心を高め、より多くの市民がスポーツを介して快適な暮らしが実現できるよう、“みるスポーツ”に対応した市内の主要施設等を活用が求められています。

誰もが気軽にスポーツの観戦を楽しむことができるよう、既存の施設におけるバリアフリー化や、新規にスポーツ施設を整備する際にはユニバーサルデザインの観点のもとハード、ソフト両面からの配慮が求められています。

芦屋ゆかりのスポーツ人物像の充実や市内で開催されるスポーツ大会・競技会の情報周知など、市民の関心を高めることが求められています。

芦屋市内にはプロスポーツチームがないことから、市民が気軽にスポーツを観られるよう兵庫県内のスポーツチームと連携したスポーツ観戦やアスリートと触れ合える機会となるイベントの誘致などが期待されています。

スポーツに関する施設やイベントなどの情報について、求めている情報をそれぞれが求める形で受信できるよう、「広報あしや」等の既存の媒体を活用しつつ、ICT（情報通信技術）なども最大限に活用し、効果的に情報を発信していくことが必要になっています。

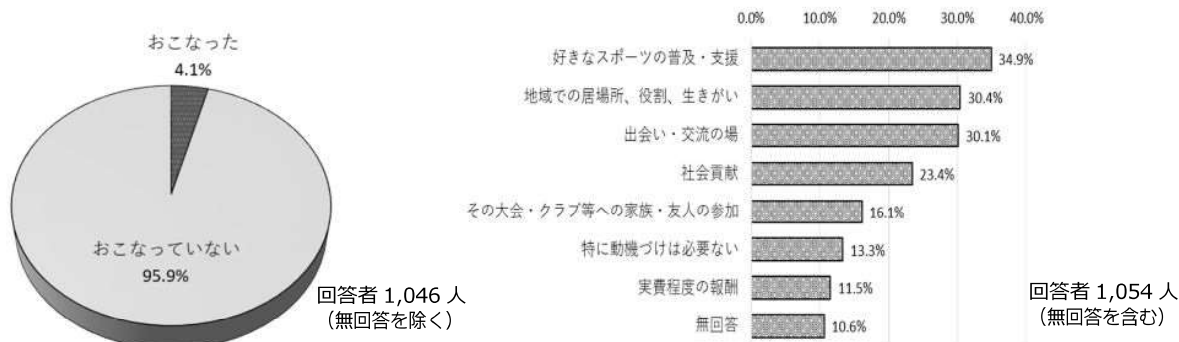
(3) “ささえるスポーツ”の推進

【現状の整理】

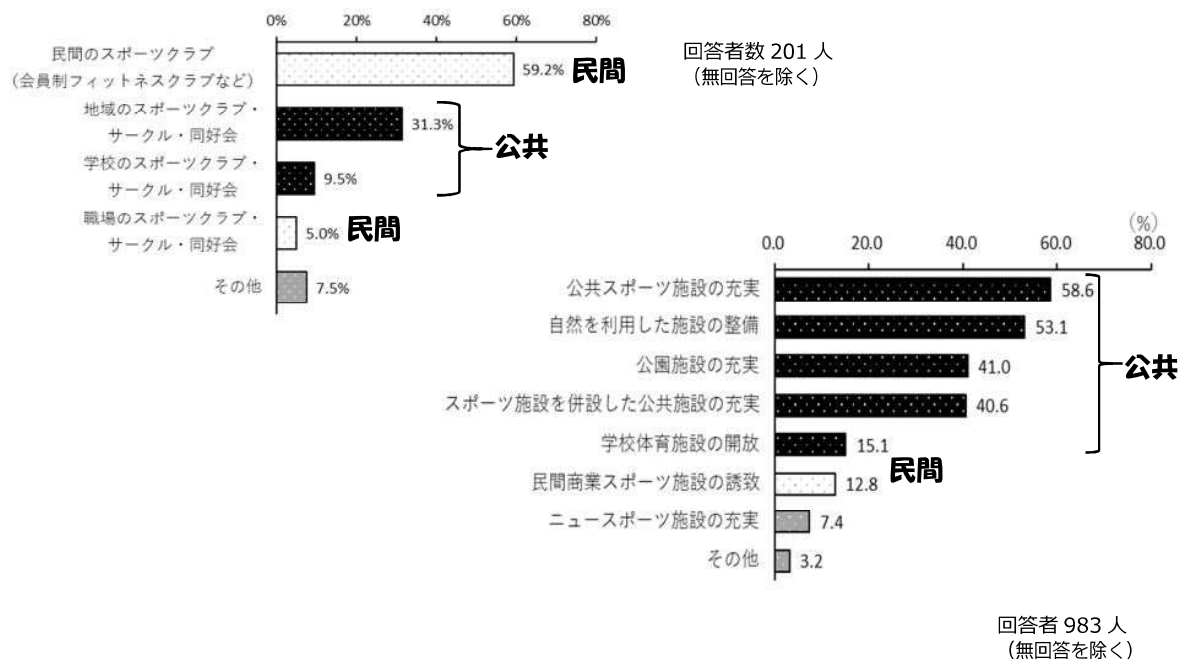
- ・スポーツに関するボランティア活動経験者はそれほど多くありませんでしたが、一方で、好きなスポーツへの支援や社会貢献、地域での居場所や生きがいづくり、また新たな出会いや交流につながるものであれば参加すると考える意見がみられました。このため、こうした環境整備やきっかけづくり、情報発信が求められます。
- ・公共スポーツ施設の稼働率は高く、施設が不足しているほか、スポーツ意識調査においても、公共スポーツ施設の充実やスポーツ施設を併設した公共施設の充実、公園施設の充実など、スポーツ実施場所への要望が高まっています。
- ・市教育委員会や市スポーツ協会、スポーツクラブ 21（コミスク）などが開催するスポーツ行事への参加者数は現状ではあまり多くありませんが、今後、情報提供の要望に応えることで参加者が増加することが考えられます。

《スポーツ意識調査-この1年間での運動やスポーツに関するボランティア活動実施状況(左)と活

動を実施したり続けたりするきっかけ(右)(主なもの)》



《スポーツ意識調査-加入しているスポーツクラブ等(上)とスポーツ施設に必要と思うもの(下)》



【“ささえるスポーツ”の推進に向けた課題】

地域のスポーツクラブ・サークル・同好会の加入者は多くありませんが、市民のスポーツ参加機会の増加や地域交流の活性化等、地域スポーツの担い手として、また地域コミュニティの核のひとつとしての役割が期待されています。

市民のスポーツ活動の推進にあたっては、行政だけでなく、市民に身近な存在で、幅広く専門的な知見を有しているスポーツ推進委員や、スポーツクラブ・団体等の活躍が期待されており、このような人材の育成や組織の充実が求められています。

スポーツを安全に正しく楽しむことを教える人材として、スポーツ指導者やスポーツボランティアの存在意義は大きく、市民の運動・スポーツ活動の推進において、ス

スポーツの適切な指導や、多様なニーズに応じた教室を運営できる人材の育成、発掘、招致が求められています。

スポーツを通じてすべての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会の創出のためには、行政、学校・大学スポーツ団体及び民間事業者など、スポーツに関する多様な主体が連携・協働して、スポーツの推進に取り組んでいくことが重要です。

民間のスポーツクラブやスポーツ施設との連携も視野に入れたスポーツ教室やイベントの開催などが求められます。

「あしやスポーツフォーラム」等をはじめとしたスポーツ団体、学校・大学、行政等が連携し、市民のだれもが、いつでも、どこでも、それぞれの目的に応じて気軽に参加できるスポーツやレクリエーション活動を提供できる活動環境や指導体制を充実させ、市のスポーツを推進していくことが求められます。

1 基本理念（ヴィジョン）

令和 3 年（2021）に策定された第 5 次芦屋市総合計画では、10 年後の市の将来像として「人がつながり 誰もが輝く 笑顔あふれる住宅都市」を掲げており、芦屋ならではのまちの良さを継承しながら、将来の世代にわたって人々の笑顔があふれ、誇りを持てるまち、さらには多くの人に憧れと夢を持って選ばれる「住み続けたいまち、住んでみたいまち芦屋」を目指すこととしています。

本計画では、令和 5 年（2023）に策定された「第 3 期芦屋市スポーツ推進計画」の基本理念に基づき、誰もが多様なスポーツを身近で気軽に楽しんで実施できるよう、市民と地域の関係団体、行政が一体となって各種施策を進めます。

【基本理念（ヴィジョン）】

**“するスポーツ”・“みるスポーツ”・“ささえるスポーツ”を推進し、
すべての市民がスポーツを楽しむことができる環境
を創る**

2 使命（ミッション）

【使命（ミッション）】

**スポーツ団体、教育機関、民間事業者、行政が
補い合いながら連携・協働することによって、
すべての市民が楽しむことができるスポーツ環境を創る。**

3 政策目標

- 1 “するスポーツ”の推進
- 2 “みるスポーツ”の推進
- 3 “ささえるスポーツ”の推進

4 数値目標（第3期芦屋市スポーツ推進計画終了年度まで）

前計画である第2期芦屋市スポーツ推進計画における数値目標について、芦屋市スポーツ推進審議会から市の現状に沿った数値目標に見直しを行う内容の答申を受けました。

このため、令和4年（2022）3月25日にスポーツ庁が策定した「第3期スポーツ基本計画」における数値目標を参考に見直しを行い、本計画においては下記の数値目標を掲げ、達成を目指します。

- （1）成人の週1回以上のスポーツ実施率65%を目指します。
- （2）成人の週3回以上のスポーツ実施率35%を目指します。
- （3）成人の年1回以上のスポーツ実施率を100%に近づけることを目指します。

